

検診機関における消化器がん患者の病名告知後の 心理的状況とその関連要因の検討

保健師・家族による心理的サポートとの関連に焦点を当てて

フカイサキヨ 福井小紀子* オザワ ハルミ 小澤 元美^{2*}

目的 検診機関におけるがん告知直後および約半年後の患者の心理的状況、およびそれらと保健師および家族のサポート状況との関連を検討する。

方法 検診機関で消化器（胃、大腸、または食道）がんと診断され、その告知を受けた患者105例を対象に、告知当日、1週間後、および告知後約半年の心理的状況（ショックの程度と身体・心理的状況）、およびがん告知後の保健師・家族のサポート状況（サポートの有無とその評価）について尋ねる自記式質問紙調査を郵送にて実施した。告知後の患者の心理的状況および保健師・家族のサポート状況を Visual Analogue Scale により測定し、これらの関連を重回帰分析にて検討した。

結果 がん告知後の患者のショックの程度は、告知当日（ 62.8 ± 26.1 ）に比べて告知後1週間（ 86.4 ± 33.0 ）には上昇し、半年後（ 25.4 ± 26.4 ）には低下した。告知当日の患者のショックの程度は保健師のサポートが有り（ $P = .01$ ）、患者によるその評価が高いほど（ $P = .003$ ）有意に低いことが示された。告知後1週間の患者のショックの程度も同様に、保健師のサポートが有り（ $P = .02$ ）、その評価が高いほど（ $P = .04$ ）有意に低かった。一方、告知後約半年の患者の身体・心理的状況は患者による家族のサポートへの評価が高いほどそれぞれ有意に良好であった（ $P = .04$, $P = .02$ ）。

結論 本研究により、消化器がん患者の告知後1週間の心理的負担は高く、その負担の軽減には告知直後の保健師によるサポートが有効であることが示された。また、告知後半年間には患者のニーズに見合うサポートが家族により行われることにより患者の身体・心理的状況が改善することが示された。これらの結果から、告知直後の医療者による患者への重点的な支援が重要であるとともに、がん告知以降に家族による適切な患者支援が長期的に行われるため、家族支援体制の整備の重要性が示唆された。

Key words : がん告知, 心理的状況, 心理的サポート, 消化器がん患者, がん検診機関

* 東京都立保健科学大学

^{2*} 東京都立豊島看護専門学校

連絡先：〒116-8551 東京都荒川区東尾久7-2-10

東京都立保健科学大学保健科学部看護学科

福井小紀子